

二〇二一年

三重若菜会会報

1. 昇級・昇段者（移行による昇段を除く）

昇級・昇段	氏名*学年は昇級時	時期・大会
A級・四段	桐嶺 真琴	12月大垣
B級・三段	村上 茉南 (大1)	3月高松宮
	山下 光司	3月高松宮
	村井 彩夏 (大2)	3月三重県
	村上 智洋	3月三重県
	植村 涼寧 (高1)	12月大垣
	近藤 真衣 (高2)	12月大垣
	羽根 夏鈴 (高2)	12月大垣
	諸岡 和奏 (中2)	12月大垣
	井村 凜 (大3)	12月三重県
	植村 智子	12月三重県
C級・二段	門脇 悠斗 (高2)	3月三重県
	羽根 夏鈴 (高1)	3月三重県
	水谷 菜々花 (高1)	12月三重県
	山内 楓菜 (大1)	12月三重県
D級・初段	岡田 崇	3月三重県
	西山 花音 (高2)	3月三重県
	日比野 太星 (大1)	3月三重県
	廣森 瑞葉 (大1)	3月三重県
	村木 悠悟 (中2)	3月三重県
	市川 愛 (高2)	8月初段認定
	金井 聡子 (高1)	8月初段認定
	川瀬 双葉 (大2)	8月初段認定
	小林 カンナ (中1)	8月初段認定
	坂野 さくら (中3)	8月初段認定
	高橋 茉央 (中3)	8月初段認定
	辻 こころ (中3)	8月初段認定
	中竹 心咲 (高1)	8月初段認定
	山内 楓菜 (大1)	8月初段認定
	山下 明子	8月初段認定
	山下 真希 (高2)	8月初段認定
	山田 明奈 (小5)	8月初段認定
	山田 侑佳 (中2)	8月初段認定

D級・初段	山田 雄三	8 月初段認定
	近藤 春美	12 月三重県
	佐藤 妃陽香 (中 2)	12 月三重県
	西井 月 (高 1)	12 月三重県
	六鹿 奏絵 (中 2)	12 月三重県
	村木 万有理 (小 6)	12 月三重県
	赤澤 心 (中 3)	12 月初段認定
	池谷 早織 (中 2)	12 月初段認定
	潮田 佳純 (高 1)	12 月初段認定
	高吉 美羽 (高 2)	12 月初段認定
	椿 麻友弥 (高 2)	12 月初段認定
	新高 楓乃 (高 2)	12 月初段認定
	濱口 美心 (高 1)	12 月初段認定
	原 侑太郎 (中 2)	12 月初段認定
	渡邊 璃奈 (高 1)	12 月初段認定

桐嶺真琴さんが二〇二二年十二月に開催されました大垣大会にて優勝し、六年振りに新たなA級選手が誕生しました。おめでとうございます。

2. 個人戦大会入賞者

A級	【四位】	太田 峻友	(10 月名人位予選)
B級	【優勝】	桐嶺 真琴	(12 月大垣)
	【準優勝】	久 知嗣	(12 月大垣)
	【三位】	村井 彩夏	(12 月大垣)
C級	【準優勝】	植村 涼寧	(12 月大垣)
		近藤 真衣	(12 月大垣)
	【三位】	村上 茉南	(3 月高松宮)
		山下 光司	(3 月高松宮)
		羽根 夏鈴	(12 月大垣)
		諸岡 和奏	(12 月大垣)
	【四位】	諸岡 和奏	(3 月高松宮)
E級	【四位】	市川 愛	(7 月高校選手権)

(以下、昇級者の内、三十五名から寄稿いただきました所感です。)

昇級にあたって

桑名若菜会 桐嶺 真琴

二〇二一年の十二月の大垣大会で優勝してA級に昇級しました。

正直B級歴が長すぎて、まだA級になった実感がありません。大垣大会を振り返ると、苦手な流れにならなかったで勝った試合が多かったです。まだ三重県の他のA級の方々に肩を並べられるような実力ではないので、名に恥じぬよう精進していきたいと思います。

気づけばかるたを始めてから十年近く経とうとしています。最初はまさか社会人になってもかるたをしているとは思いませんでしたが、ここまで続けてこられたのはかるたをする環境が身近にあったこと、辞めないことを目標にやってきたからだと思います。これからも、かるたを続ける限りがんばりたいと思うのでよろしくお願いします。

最後に、普段練習会で試合をしてくださる方、ご指導いただく方に感謝を申し上げます。

昇級して

鈴鹿玉垣かるた会 村上 茉南

二〇二一年三月十四日に開催された第七十回高松宮記念杯近江神宮全国競技かるた大会のC級の部で三位となり、B級に昇級することができました。新型コロナウイルスの流行により次々と大会の中止が決定される中で当時この大会は開催に踏み切った数少ないものだったので、私自身初のコロナ禍での大会でした。感染予防対策をとりながら行う大会に戸惑う点はありましたが、知り合いも多く、また会場が分散されていたことなどから全国大会特有の緊張感があまりなく、練習同様の精神状態で試合に臨めたことが今回の昇級につながったと思います。C級に昇級した時と同様に昇級がなかった試合中で緊張している中でも、試合相手の緊張が感じられるほど冷静に試合をみることでできたので、やはり勝つためには落ち着いてできるだけ練習の時と同じよ

うにかかるたをとることが大事だと感じました。

自分のかるたは抜け札が少ない点が強みです。しかし札を強弱をつけて覚えることが苦手なため後半苦勞することが多く、今後の課題だと思っています。B級の中でしっかり勝ちきれるように、これからも練習に励んでいきたいです。

最後になりましたが、三重若菜会の方の支えのおかげでここまで来ることができました。これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

かるたを楽しむこと

皇學館大学競技かるた部 村井 彩夏

私は二〇二一年の三重県大会で優勝をすることができ、B級に昇級させていただきました。しかし、三重県大会の前に参加した、高松宮杯C級では、初戦敗退だったため、三重県大会で昇級が決まった時も、素直に喜ぶことができませんでした。その後の大学での練習も思うようにいかず、いわゆるスランプの状態が続いていました。色々な方にアドバイスをいただきましたが、頭の中

では理解していてもそれを中心に落とし込むことができず、かるたを素直に楽しめていない日もありました。その後、コロナ禍で再び大会は少なくなっていきましたが、私は逆にチャンスだと思い、構え方や考え方をなどを改善していきました。その中で気づいたことは、かるたをするにあたって、最も重要なことは「かるたを楽しむこと」に尽きるなと感じました。初心に帰ると、練習試合で勝っても負けても、「かるたって楽しいな」と思ったからこそ、次に勝つための努力につながっていたのだとわかりました。今後、B級からA級に上がる壁は非常に大きく、困難ですが、「かるたを楽しむ」を軸に、日々の練習に励みたいと思います。

優勝を目指した一週間

鈴鹿玉垣かるた会 村上 智洋

三月十四日の高松宮杯C級は十七枚差で一役しました。

妻のともみから三重県大会で優勝して昇級しようと発破をかけてもらい、大会前の一週間、毎日練習しまし

た。その練習内容を紹介します。

まず、相手陣下段の払いの精度と一音目の反応速度を上げるため「一音目を聞いて払い練」をしました。この一音目なら相手陣下段の左右どちらを払うかを予め決めておき、聞き分けて端に置いた札を払う練習です。読まれてから手が離れるまでの時間を自作ソフトで計測して反応速度を確認しながら行いました。例外として、あ札は一音目よりも二音目が大事という考えから二音目を聞き分ける形としたため、あ札以外を読ませた後、あ札のみを読ませました。

次は、各段への払いの精度を高めるため「全列ランダム払い練」をしました。決まり字ではない特定の「く三文字の言葉を自作ソフトに読ませて、言葉毎に決められたいずれかの陣の左右いずれかの段の端に置いた札を払う練習です。上段は五枚置くことで上段のひっかけを防止する練習も兼ねました。

これらは私が考案した払い練ですが、決めた場所を払うよりも読みを聞き分けて払うことを重視したいという考えに基づいています。

次に、一字・二字の札に強くなり中盤く終盤力をつけるため「一字・二字限定一人取り」をしました。一字札

七枚・二字札四十二枚・二字決まり扱いの三字以上の札二十四枚、計七十三枚を四組に分けて9・9または9・10の一人取りをします。読み札は百枚全て使うと空札が多くなるので、場札と一音目が同じ札のみ読ませる、かつ三字以上の札は共札毎に一枚のみ読ませる(例・な札ならなに、なが、なげ、なつの四枚読ませる)ことで適正な空札率になるようにしました。

毎日札を触ることはコロナ禍以前から滅多にしませんでしたが、久しぶりにかかるたで筋肉痛になり手応えを感じました。加えて、札を使う練習以外にも、自作ソフトで暗記練習をしました。

しかし大会前の会の練習は同級に負け、妻との試合も二連敗しました。そこで、急遽「倍セიმ以上の状態をキープして一人取り」という練習を考案し、守りながら攻めることで挽回力を養うことで仕上げとしました。

こうして迎えた三重県大会。中学生、高校生、大学生、社会人、各世代の方と対戦し、優勝することができました。大会前の一週間、様々な練習を集中してこなしたことが勝因の一つと考えています。この一週間の中に私の七年近くに及ぶC級時代に足掻いた中での試行錯誤の結果を詰めこむことができたと考えています。また、そ

れ以上に、妻と優勝を約束したことがモチベーションとなり、試合中のメンタルにプラスに作用したのが大きかったと実感しています。妻には感謝の気持ちでいっぱいです。

大会後、会の練習ではC級相手に五連敗し、本来のB級の實力には程遠いと痛感しています。しかし、心が折れそうになった時に誰もやっていないであろう独自の練習法を編み出すことでモチベーションの回復に繋げることができなのが私の強みです。

これからも様々な練習法を試しながら、自分の目指すかるたを追求していききたいと思います。

三年越しの昇級

暁学園かるた部 植村 涼寧

勝因の一つは相手のペースに乗せられず、いつも通りの試合を心掛け、暗記を丁寧にしたことだと思います。また、何度か試合をしたことがある会場だったため落ち着いて試合に臨めたことも自分の中では勝因の一つでした。

自分がかかるたで強みだと思っているところは、お手つきの少なさです。お手つきは無条件に二枚以上の差がついてしまうため音をよく聴き暗記を怠らないようにしています。苦しい展開でもお手つきに助けられることはよくあります。だから逆に自分を苦しめないように変に手を出したり、決まり字を聴いて札を取るタイミングを間違えたりしないように気をつけています。

最近の練習では相手陣の、特に下段にある札を「体で」取るということを目標にしています。今は腕をただ伸ばしているだけなので相手の手を押してしまい結局は取られてしまったり、取れたとしてもギリギリだったりするので勢いよく飛び出すイメージで札を払えるようになりたいです。

加えて、お手つきを怖がり過ぎないようにすることも目標にしています。お手つきをしたくないと思っっている分、思い切りのよさが自分には欠けていて慎重になってしまい取れたかもしれない札も逃してしまうことが多々あるからです。また、お手つきをしない選手と対戦した場合、札をどれだけ取れるかが勝負になってくるので、どうしても勝率が下がってしまいます。だから如何にお手つきを抑えたまま札を取ることができるように

するかが今後の課題だと思っています。

これからの練習でも目標として書いたことだけでなく、自分に足りていない部分を見つけていき意識しつつ、より一層かるたを楽しみながら強くなっていきたいと思っています。

B級に昇級して

暁学園かるた部 近藤 真衣

私は十二月に行われた大垣大会で準優勝し、B級に昇級することができました。

一回戦が私の好きな三重県の読手さんの読みから始まり、調子を上げる事ができたのが昇級の一番の要因だったのではないかと思います。

一回戦・二回戦とも体が速く動きだしすぎてしまう傾向にあり、札の上で手が止まってしまったり押さえ手になつてしまつたりで思うようなカルタが取れませんでした。三回戦は再度三重県の読手さんだったので、落ち着いてよく聞いて自分の取りをすることを心掛けた所、勝つて昇級を決める事

ができました。五回戦となる決勝の相手は、私の理想とするタイミングを合わせて決まり字で札を払うカルタをする選手で、試合は完敗でした。私も普段の練習からタイミングを意識して、速く動きだし過ぎず、決まり字ピッタリで札を払うカルタを目指して努力したいと思っています。これからもご指導をお願いいたします。

三段を取得して

桑名高校競技かるた部 羽根 夏鈴

今回、私が三段を取得できた決め手は、お手を極限まで減らせたことです。

大会では、普段の練習と違って、三試合、四試合取るので、あとの試合ほどみんな暗記が入らなくなってきました。そこで、そんな局面だからこそ、どの札がどこにあるのか丁寧に確認して、速く取るというよりは、確実に取っていくことを大切にしています。

私のかるたの強みは、自陣もしっかり取ることです。とは言っても、攻めがたるたなので、相手陣を攻めに行く途中で、自陣の札が聞こえたら拾いに行くというイメージ

ジです。

しかし、まだ全部の札がそういう風に聞こえる訳ではないので、自陣で拾える札をもっと増やすことが、これからの私の目標の一つです。

練習で心掛けていることは、とにかく最初の十五分の暗記を丁寧にする事です。具体的には、場にある札一枚一枚をどう取るかを考えるようにしています。

これからも色々な方とたくさん試合を取って、自分らしいかるたを極め、一日も早く四段になれるように、日々頑張りたいと思います！

三段に昇段して

桑名若菜会 諸岡 和奏

私は二〇二一年十二月の大垣大会で三位となり、B級に昇級する事ができました。

二回戦目にとっても強い人と当たり、気力が無くなっていた所に、お父さんから変な事を言われ、昇級戦の序盤ボロボロになりました。ですが途中からその事に腹が立ち、逆に燃えた事が、結果的に良かったと思います。

昇級戦後、同会と一緒に頑張ってきた友達も同じ組で残っていたので、決勝戦を戦う約束をしましたが、私の方が先に準決勝で負けてしまいました。一緒に昇級できたことは嬉しかったですが、その事はとても悔しかったので、いつか別の大会の決勝戦で、今度こそ一緒に戦いたいと思いました。

普段からの練習で心掛けていることは「最後の一枚まで気を抜かない事」です。まだ、できていない時があるので、これからも練習会で頑張っていきたいと思います。今年、桑名若菜会の「お菓子委員長」に就任しました!! 三重若菜会の「お菓子委員長」に就任できるよう、かるた共々、頑張りたいと思います!!

三重県大会の所感

皇學館大学競技かるた部 井村 凜

私は三重県大会のC級の部にて、B級に昇級させていただきました。県内の大会ではありますが、結果を出せたことはいれしく思います。当日の試合は初戦も次の試合もできれば当たりたくなかった相手が続き、苦戦しま

した。準決勝は運命戦までもつれました。試合中、「あらし」の札は出ないかな、と思い送ってあったのですが、終盤1・5あたりの時に致命的なお手付きをしてしまい、「あらし」が返ってきてとても焦りました。自らとんでもないピンチに陥ることとなりましたが、なんとか粘り、運命戦では、「あらし」を送り返すことができたため、準決勝を制することができました。とても反省点が多い試合だったと記憶しています。決勝戦は一字決まりの札がたくさんありましたが、ほぼすべてが相手陣にあり、攻めやすく、有利な札の配置で試合を進められたと思います。一字決まりはまだまだ課題の札ですが、配置も味方してか、しっかりと攻めることができたと感じています。運命戦や決勝の札の配置など、運が味方した部分もありましたが、勝ち切ることができてうれしく思います。まだまだ課題ばかりですが、B級でたくさん揉まれて、精進していきたいと思っています。

「エイヤっ！」 大事ですね

桑名若菜会 植村 智子

とあるCMのセリフ。

ホンマそれ！

大会が苦手というのと、大会当日は朝からお参りがあり一試合目に間に合わないかもという状況だったので出場を躊躇っていました。

しかし締切当日まで迷って周りの説得もあり「エイっ」で気持ちで申し込みました。

大会当日、九時過ぎにお参りが終わり急いで着替えて車を飛ばしました。会場に着いた頃には一試合目の組合せが始まっていました。

私はC1チームだったのですが前日の大垣大会でB級に昇級された人たちや欠席者の関係と間に合わないかもと伝えてあったので第一試合がないC2チームに変更にしろらっていました。そのおかげで気持ちを落ち着かせる時間が出来ました。

一試合目の対戦相手は大会前の練習会の時に負けた人だったので気を引き締めて試合に挑みました。

二試合目の相手は大阪なにはえ会の人でした。三重県の人じゃない！ってことで緊張感を持って対戦しました。

決勝戦は皇學館大学の学生さんでした。まさか決勝戦

まで勝ち上がれると思っていなかったの、ここまで来れて満足、今の私じゃ優勝なんてムリだよねえと思いがら、でも大差では負けるのは嫌だ！と少しでも差を縮めようという気持ちでした。相手の札移動が結構あったので、その対応に追われながら暗記をこまめに確認しお手つきに気をつけながら集中しました。

優勝したら昇級出来るとのことだったので嬉しかったです。しかし今の自分の実力でB級としてやっていくのかと自信がなく迷いましたが会長に「自信がなくても向上心があるなら上の級に行つて強い人に揉まれた方が強くなる」と言っていたので昇級を決意しました。

大会当日のお参りやチーム変更、前日に昇級した人たちがいたこと、大会前の練習で負けたこと、参加締切日に勢いで申し込んだことが私にとって良い方に向かっていたのだと思います。当日の実力や運だけでなく日々の流れの先に結果がついてくるということにこの大会で気づきました。

C級を取得して

暁学園かるた部 水谷 菜々花

今回の昇級において、一番の勝因は構え方にあったと思います。

私は、昨年の夏ごろに周りの方のアドバイスを頂きながら、今まで自分では気づくことができなかった構え方の改善を行いました。その改善によって、元々苦手意識を持っていた相手陣下段をより一層、正確に伸び伸びと払えるようになり、私のかるたの強みの一部となりました。

普段の練習では、周りの方がアドバイスしてくださったことを取り入れて練習に励むことを心がけています。自己分析では気づくことができない部分は必ずあるので、アドバイスを一旦受け入れて実践してみることは、かるたの成長をする上でとても大切なことだと思っています。部活やかると大会に参加している以上、自分一人では気づけないことを大切にしていきたいものです。

直近の課題として、精神的な面がかなり弱いことに問題を感じています。今後は、ストレスができるだけ少な

い状態でリラックスすることも意識しながら、試合に取り組めるようにしていきたいと思います。

競技かるたで意識していることについて

皇學館大学競技かるた部 山内 楓菜

私は普段の練習で、言われたことをできるだけ多く取り入れることを意識しています。私はかるたを初めて一年も経っておらず、いろいろな面においてまだまだ未熟です。しかし、周りには払い方が綺麗な先輩や、札に反応する速度がとてはやい先輩、一枚一枚の取り方を考えながら試合運びを行う先輩など、強い先輩がたくさんいます。それに、私が「こういう風に動きたい」、「試合を進めていきたい」と相談すると、一緒になって考えてくれる同級生がいます。先輩も同級生も、優しくかかるたが大好きな方です。私の周りには尊敬できるような人ばかりでした。そんな方々の貴重なアドバイスを、できるだけ多く取り入れつつ、一枚でも多く、速く取れるように日々練習しています。

今後の私の課題は、三文字決まりを取れるようにする

ことです。一字や二字は取れる枚数が増えてきましたが、三字がどうしても取れません。普段の練習においても意識していますが、思うように取れずに悔しい思いをしています。どうすれば取れるようになるか、現在試行錯誤をしている最中です。三字を克服するためにも、助言を取り入れ、それを踏まえた払い練や聞き分けの練習などを積み重ねていきます。

私はこの一年で、競技かるたが大好きになりました。新型コロナウイルスの影響でかるたができなかった期間を通して、今、かるたをすることが楽しくてしょうがありません。今後も、これまで通りに先輩方の助言を取り入れ、より強くなれるように頑張っていきます。

「初段への昇段」と「競技かるたとの出会い」

松阪かるた会 岡田 崇

令和三年三月二十一日第二十九回三重県かるた競技大会にて、初段へ昇段を果たすことができました。

本大会ではE級で出場し、運よく決勝までいくことができ、昇段することができたのですが、決勝戦よりも、

その前の試合（準決勝）がとても印象深く思い出されま
す。

相手は女学生だったと思いますが、結構な接戦になっ
ていて、優勢になったり劣勢になったり勝負がどちらに
転ぶか分からない状態でした。

そして終盤になって読まれた札「ひとはいさ…」

それを聞いた瞬間、完璧に取れたのかお手つきしたの
か、一瞬よく分からなかったのですが、思いつき相手
陣の札を払いました。その感覚が今でも忘れられません。
果たして無事に取りることができました。そして、その札
以降、流れが私にきて勝利を収めることができました。

四十八歳にして初めて「競技かるた」に触れ、練習す
ること約二年、何とか初段に昇段することができました。
ひとえに、ご指導いただいた中西先生や宮本先生をはじ
めとして、一緒に練習してくださった皆様のおかげです。
この場をお借りして御礼申し上げます。

平成三十一年四月、仕事の関係で三重県に単身赴任で
転勤してきたことをきっかけに、以前から興味をもつて
いた「競技かるた」をやってみようと思い立ちました。
ちょうど近くの明和町で初心者向けの練習会をやっ
ていたので、参加させていただくことになりました。初

めて練習会に参加した時から、「競技かるた」の面白さを
知った記憶があります。

それから毎週練習を続けて、さらに「競技かるた」の
楽しさや面白さを知ることができました。音を聞いて素
早く反応する。単純なようにいて「決まり字の変化」や
「送り札」など、とても奥深いものを感じました。老若
男女が楽しめることや、礼儀やマナーなど日本的な部分
にもとても魅力を感じます。

この三重県にきて「競技かるた」に出会うことができ
て、とても嬉しく思います。これからも続けていき、で
きることならさらに上の段を目指して精進していきたく
と思います。

昇級して感じたこと

皇學館大学競技かるた部 日比野 太星

私がD級に昇級することができたのは、思い切りの良
さと仲間の支えがあったからだと思う。大会が始まる前
は、うまくいくのか不安で良い試合ができるのか分から
なかった。大会当日になって試合会場に行ってから緊

張で良い試合ができるのか本当に不安だった。しかし、試合が始まると気持ちを切り替え、札をとることに集中することができた。また、同じ大学の仲間も声をかけてくれて緊張をほぐすことができた。そのおかげで、相手の気持ちに負けず、思い切りとることができた。試合内容は、負けそうになる時もあったが、そういつたときほど自分を信じて思い切り試合をすることができた。練習では、大会と同じような気持ちでとることができた。緊張感を高め、良い練習を行うことができていたと思う。練習では負けることも多かったが、その度にアドバイスをもらい、自分の力に変えることができていたと思う。試合では、自分の思っていた以上の力を発揮することができたと思う。それは、仲間の支えや切り替えをうまく事が要因だったと思う。

これからは、より厳しい戦いが待っていると思う。今は、自分が取った札を敵陣と自陣で分けて数えることで課題を明確に見えるようにするなどさらに進化できるように工夫している。さらに上の級に昇級できるよう頑張りたい。

かるたについて

皇學館大学競技かるた部 廣森 瑞葉

昇級を決めた要因は、試合中に余計なことを考えなかったことだと思っています。私は、気が緩んだ時のお手つきや緊張による暗記漏れが多く、いつも苦戦していました。大会ではそれを防ぐために、目の前の試合だけに集中して臨みました。それがよかったのではないかと考えています。また、本番は一枚ずつ札を拾っていくことに意識を置いていました。特に自分が緊張していることをどれだけ忘れられるかが重要であると思います。忘れられない時は、大会が「いつもの練習である」と自分の脳を騙して試合に向かいます。普段の練習では、必要以上には焦らないように練習することを心掛けています。心掛けているものの、いまだに試合になるとつい焦ってしまうことが悩みです。お手つきが多かった試合とそうでない試合を比べてみて、自分がどのように試合中動いているかを考えていきたいと思っています。また、試合中盤から暗記が弱くなってしまうため、自分に合った意識の仕方や暗記方法を模索していきたいです。

百人一首に對しての変化

鈴鹿玉垣かるた会 村木 悠悟

私が百人一首に関わり始めたのは小学三年生の時です。当時、五色百人一首の大会があるので出場してみては？と担任に勧められて、緑の枠で挑戦することになりました。

この時、最初に覚えた喜撰法師の首は今でも特別な一枚です。大会では三位の成績となり近畿大会に出場しましたが、まったく太刀打ちができませんでした。

その後は学校で青の枠を、家では妹の相手をするために黄色の枠を覚え小学五年生の時に鈴鹿玉垣かるた会で源平戦を習い始めました。

三か月ほど源平戦を習った後に競技カルタの世界に踏み入れることになります。

源平と五色しかやっていなかった私には「払い手」という概念がなく、必死に一字決まりと大山札、そしていくつかの好きな首を取ろうとしました。

勝負をしていくうちに「おお」と発音される札の位置

を工夫したり、戻り手や払い手を出来るようになり、先輩達にも勝つことも増えて二年前に三重県大会でD級となりました。

小学三年生の頃は、まさか自分が百枚の札を暗記して戦うなど考えもしておらず自分の中で源平戦との出会いが大きな変化をもたらしたのだと思っています。

競技カルタで、私の強みと考えるのは押さえ手を構えることが速いことです。五色や源平では払い手を使わずに基本押さえ手で取ります。そのためこの二つのルールで勝負していた経験ゆえか競技カルタの試合では決まり字が読みきられる前に狙いの札の上に手を伸ばすことができるともあります。払い手で抜かれることもあります。プレッシャーを与えたり、お手つきのリスクを減らせるので序盤は押さえ手、終盤は払い手とスイッチしながら勝負できるようにしていきたいです。

初段を取得して

暁学園かるた部 市川 愛

私はこの度、競技かるたにおいて初段に昇段しました。

今までの部活でやってきたことが実を結び、結果として目に見える形になったのでとても嬉しいです。

私が昇段できたのは私だけの努力ではないと思っています。部員のみんなや先生は勿論、外部から指導してくださった人や、かるた会の皆様からのアドバイスなどを受けることができたからだと思っています。コロナウイルスが流行している中、練習につきあってくださったことを感謝しています。

私はこれからも昇段を目指していくつもりです。アドバイスを素直に受け入れる姿勢を続け、今後は自分で何をしたら強くなれるかを考え、実行していけるようにしていきたいと思います。そしてたくさんの人と試合をして、教えられずとも学んでいけるようになり、次は私が誰かに教えてつなげていきたいです。

そして何より大会を運営してくれた皆様や、練習につきあってくれている部員のみんなに感謝を忘れず、礼儀などをしっかりしていこうと思います。

初段を取得して

桑名高校競技かるた部 金井 聡子

私が今回の大会で初段に昇段できた勝因は、自分の得意札だけを意識する癖を治すために全体の札を満遍なく意識したことだと思っています。また、相手が狙っていると感じた札の共札を意識して取るように心がけることで相手の隙を狙うようにすることなど、同レベルの選手に勝つためにさまざまな工夫をしました。三試合連続というのは初めてでしたが、休憩時間に間食をとるなどして、最後まで集中力を継続することができたと思います。これからは、お手つきをなくすこと、速さと正確さを求めること、どんな相手でも萎縮せずに自信を持って試合に挑むことを意識していきます。また、多くの大会に出場して経験を積み、初めて戦う相手でも自分の強みを最大限発揮できるようにしたいです。そして、暗記時間を有効に活用し、より正確に早く暗記し、送り札も適切なものを送ることができるようになりたいです。そのためには日々の練習で対戦相手からのアドバイスを真摯に受け止め、自分の弱点を知ると共に相手の強みを取り入れていきたいです。

初段を取得して

皇學館大学競技かるた部 川瀬 双葉

一昨年の十二月に大学の部活で競技かるたを始めて約一年が経ちました。部活では先生や先輩方の元で教えて頂き沢山試合を積ませて頂いたおかげで、昨年の初段認定大会で初段を取得することができました。

昇級戦では中盤まで枚数差が開いていても、焦らずに集中して追い上げたことが勝因になったと思います。逆に序盤に思うように攻めることができないという反省点もあるため、改善のために練習を積みたいと思います。私は一字目を聞いて飛び出すことが苦手なので、最近の練習では「この札はこう取る」というイメージを立てることを心がけています。試合が終わってから反省点を洗い出し、その課題を減らして行けるように試合毎に意識した練習を心がけています。部内には親身になってアドバイスをくれる先輩方や同級生がいるため、恵まれた環境で練習ができています。日々感じています。

まだかるたを始めて一年ですが熱中してできる競技と出会うことができ、とても嬉しく思っています。コロ

ナウイルスの影響で思うように部活動ができないこともあるので、一戦一戦を大切にして日々成長していきたいと思います。

初段を取得して

暁学園かるた部 坂野 さくら

私は競技かるたを中学一年生の頃に始めました。ほかの部活よりも数少ない競技かるた部に興味をもち、かるたの知識が何もないまま入部しました。始めの二年間は札を取る速度がなかなか成長しなかったり、暗記があまり入っていないかったりと苦戦しましたが、中学三年生の八月、初段認定大会での昇級をきっかけに、わずかながら成長したように感じます。初段を取得したことで、かるたを始めた頃よりも「楽しい」「もっと強くなりたい」という気持ちが大きくなりました。私は練習の試合後になるべく対戦相手に感想を聞くようにしています。「この札が速かった。」などと褒めていただいたり、「この辺の暗記が出来ていなかった。」などの指摘をしていただきました。そこでの反省を次の試合に活かし、日々勝て

るよう努力しています。今後の目標は、どんなに実力差のある相手でも、勝ちを意識し最後まであきらめず札を取ることです。私は試合の終盤、集中力が大きく下がってしまふ傾向があります。競技かるたには瞬発性、暗記力のほかに体力も大きく影響していると日々痛感しています。これからも昇級を目指し、毎日の練習に臨みたいと思います。

初段取得について

暁学園かるた部 高橋 茉央

私が初段認定大会で勝つことができた理由は、根性があったことだと考えます。私は特別集中力が高いわけでもなく、特別耳がいいわけでもありません。なので競技を始めたばかりの頃は自分の長所を見つけることができずとても苦労しました。でもそんな時、ある先生が君は根性があるねと言ってくれました。いくら力で劣っていても根性で食らいついていく、そこがいいねと言ってくれました。その先生の言葉と私の長所である根性が私が初段認定大会で勝つことができた理由だと思います。

そんな私の根性が、強い相手にも通用することを証明するために昇段を決めました。

また、私が普段の練習で心がけていることは暗記をできるだけ早く丁寧にすることです。先程述べたように、私にはかるたの才能はありません。なので、それ以外の点で他の人より勝つことが大切だと考えています。しかし、共に練習しているB級・C級の先輩たちはもつと覚えるのが早く、私はその足元にも及ばず、いつも負けてしまします。負ける度に悔しさが増し、次こそはと思います。自分がB級・C級になった時にはこれほどまでに強くなれているのだろうかと考えると、とてもわくわくします。それが、私のモチベーションになっています。今後は、暗記をもっと早く丁寧にすること、そして私の弱点である相手右下段を上手く払えるようにすることに力を入れます。特に相手右下段を払うことは、競技かるたにおいて大きな意味を持つものだと考えています。D級の世界は今までとは比べ物にならないほどライバルが多く、心が折れそうになることがあると思います。それでも、自分の長所を信じ、自らに負けないような強い選手になれるよう頑張ります。

初段を取得して

桑名高校競技かるた部 中竹 心咲

大会で昇級できた最も大きな要因としては最後まで粘り強く諦めなかったことだと思います。序盤はほとんど枚数は変わりませんでした。中盤になって五、六枚ほど差がつく場面がありました。その時に落ち込むのではなく、一枚一枚取り返していくという気持ちで取り組むことができ、相手にプレッシャーをかけることができました。負けている場面で弱気にならずに逆転するという気持ちをもつことで昇級できたと思います。また私は練習の時に手をできる限り前に出すことを意識して取り組んでいます。手を出ることによって一番奥の札までの距離が縮まり、相手陣を狙いやすくなるためそのことは常に意識するようにしています。このことも昇級できた要因の一つだと思います。今後については自分の強みである気持ちのもちようや二字決まりを取るスピード、囲い手などをより鍛え、個人的に苦手だなど感じる一字決まりや三字決まりをしつかり聞き分けれるように強化したいと思います。一字決まりに関しては

読手が一字目を読み切る前に手を出せるように、三字決まりに関しては三字目でお手つきしないように音を耳に慣らしていきたいです。そしてD級に昇級してからまだ一度も勝てていないのでまずは一勝することを目標に頑張っていきたいです。

昇級

桑名若菜会 山田 明奈

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）
二〇二一年八月十五日に私はD級（初段）になりました。

昇級昇段を決めた要因は、高校生の人でも大人の人でも、「強そうだな」と思っても相手陣右下段の札を取ろうと意識したことです。

私は普段の練習で自陣右下段の札を取られると「どうしよう」と思います。

なので敵陣右下段の札を三試合とも全て狙って三試合中二試合勝ち、D級になりました。

2. 自分のカルタの強み、弱み

自分のカルタの強みは暗記力とお手つきの少なさです。

自分のカルタの弱みは 反応速度が遅いところと長いこと集中ができないところです。

3. 普段の練習で心掛けていること

最後まで札を払いきることと最後まで集中を途切らせないようにすることです。

4. 将来目指したいこと

私が将来目指したいことは、強くなっての級になることです。

中学生になってもかるたを続け今よりもっともっと練習をし誰にも負けないようになりたいです。

初段を取得して

暁学園かるた部 山田 侑佳

この度の初段取得において、今回の勝因は一試合一試

合の切り替えをすることができ、冷静に札を取ることができたことにあとを考えます。

私のかるたの強みは暗記にあると思います。試合をたくさんやっていてもほぼ正確に覚えることができるため、出札があるところへ正確に手を出すことができると考えています。普段の練習では、強い人と対戦させてもらうときに一枚でも差を縮めることができるように、相手陣重視で暗記をしたり、集中力を継続できるように心がけています。相手陣下段の札を取ることが苦手なので、今後は払い手練習もしていきたいと思っています。また、体力があまりないので、四試合以上やり抜くことができるようになっていきたいです。

今持っている強みを活かしつつ、たくさんの技術も身につけていきたいです。

かるたとの出会い

三重若菜会 山田 雄三

かるたを初めて見たのは、自分の子供が近江神宮での高松宮記念杯のE級大会に参加している試合でした。当

時は全く興味をもたず、ただ送り迎えをして、試合も少しだけ見て観光気分でした。

それから二年経って、子供が札も知らない自分に「試合をしよう」と言ってくるので最初は断っていたけど、「とりあえず百首覚えて」と強引に言われ、渋々一ヶ月かけて覚えたと思ったら、今度は「これから練習会に行こ」と無理矢理連れて行かれる始末。

そこでは、畳の上でかるたをしている子供、大人、女の子、男の人達が一対一で真剣に競い合っていました。こんなに熱い試合をするんだ、面白そうだと思っていたら「百首覚えたのなら試合してみますか」と声を掛けられ「はいっ」と答えてしまい試合をすることに。結果は…。

それから二年。コロナなどで試合も少なく、初段認定試合というこのような機会を設けていただき成果を出さなければと思い挑みました。

なんとか昇級出来たけれども、納得のいかない試合運びでした。もっと会長をはじめ若菜会の人達に練習に付き合ってもらい強くなりたいと思いました。

初段を取得して

暁学園かるた部 西井 月

この度の初段取得において、今回の勝因は最初から最後まで集中できたからだと思います。普段の練習から、最後まで集中をきらさないように心がけていてよかったですと思いました。

その他に普段の練習から心がけていることが四つあります。一つ目は、相手陣を取りに行くときに、腕だけでなく体ごと取りに行くことです。二つ目は、体の向きが左に傾かないようにすることです。三つ目は、囲い手です。相手に取られないように手を低くして、間違えてさわってしまわないように意識しています。四つ目は、読まれた札をきちんと覚えて消去していくことです。

これからの目標は、早く綺麗に払えるようになることです。早く綺麗に払うためには、払い練習をたくさんする必要がありますので、今後はそこを重点的に練習に組み入れていきます。

初めての優勝

桑名若菜会 六鹿 奏絵

私のかるたとの出会いは、小六の時です。姉弟で坊主めくりをして遊んでいて、何度も遊ぶうちに、いつも使わない札（取り札）が気になるようになり、母にこれはかるただというのを教えてもらいました。私は元々、枕草子や平家物語、徒然草などの古典の授業が好きだったので、百人一首にも印象に残っていた句があり、とても興味がわきました。そして姉弟でかるたをするようになり、速く取れるよう、競い合うようにして百首覚ええました。

練習するときに意識していたことは、暗記を正確にすることです。初めは暗記の仕方がわからずただ札を見つめていて、試合でも押さえ手でした。暗記は配置を見ずに順番に言えるようになることだということを若菜会で教えてもらったので、そのように暗記したら反応が早くなり、払い手もできるようになりました。最近では、写真を撮るように暗記をするに加え、友札の確認や手の軌道の確認を暗記時間の間にするようにしています。

す。

私がこの大会で成長したことは、試合中の札の確認や暗記をできるようになったことです。でも私は手だけで動いていて決まり字より早く札に到達してしまい、コントロールできずにお手つきすることや、札の上で待機することになり、その結果取られてしまうことが多いです。なので、せめて抜け札だけはなくそうと思い徹底しました。

私のこれからの目標は、試合中の札の確認と暗記を続けること、体全体で動き、決まり字ちょうど当たり札に到達できるようにすることです。これらを身に着けられるように頑張ろうと思います。

私の競技かるた

鈴鹿玉垣かるた会 村木 万有理

私の競技かるたの強みは二つあります。

一つ目は「は」の決まり字を取るのが速いことです。私は二年生の時に兄に誘われて百人一首を始めました。最初に覚えたのが「は」の決まり字で、その頃から「は」

の決まり字を得意にしていました。「は」の決まり字以外にも「は」行の札を速く取れるようにしました。

二つ目は暗記のやり方です。私の暗記の仕方は、相手の左下段から中段、上段を一回覚えたら、自分の上段からどんどん下へ中段、下段と覚えていきます。そのあとに、友札のある札を覚えていくという覚え方をしています。人によって覚え方は違いますが私なりに努力したいと思っています。

私が普段の練習で心掛けていることは、なるべく相手に束で負けないようにしていることです。束になると、どうしても気持ちが弱くなってしまう勝つことができません。早い段階で戦法を変えたり、取れる札を見極め直す必要があります。また、束になると焦ってしまいお手付きの回数が増えてしまいます。そんな時は、勝ちにこだわらず一枚一枚丁寧に取っていくように心掛けています。

昇段した時に大会では二位でしたが、全体的に集中力がいつもより持続したように思えました。兄に追いつきたい気持ちが強かったからかもしれません。一字決まりの得意な「は」行の札が特に目に入りました。

これからも自分の強みを増して上のクラスへ上れる

ように努力したいです。

初めての大会

暁学園かるた部 池谷 早織

私は今回の初段認定大会が、かるたを始めて初めての大会でした。今まで大会に出る機会はたくさんありましたが、出る勇気がありませんでした。初めての大会だから、負けてもしようがないなという気持ちが最初がありました。でも、三試合目の途中でこの試合で勝てたら初段に上がれるんだと思い、残り五枚くらいで最後の力を出して頑張りました。勝因には、多少の運はあると思います。でも、一番思ったのはやっぱり集中力かなと思います。今回の大会の試合は今までやってきた試合の中で一番集中できたと思います。

自分のかるたの強みはまだ自分の中でこれというものがなかったので、これから見つけていきたいなと思っています。普段の練習では、前回この先輩とやったときより一枚は多く取るというのを心がけています。それとこの札は絶対にとるといふのを決めて試合をしています。

今後の目標は、たくさんの方に出ることです。まだ一回しか出たことがないので、経験を積んでいつて先輩と同じくらい強くなりたいと思っています。そのために、暗記力や、瞬発力を高めていきたいです。

初段取得の見解

暁学園かるた部 潮田 佳純

私が今回、初段を取得できた理由の一つとして、札の配置の暗記にあると思います。試合を繰り返していく中で札は、決まり字や場所が変化していくので、とても注意しています。試合では暗記を前提に札を取るの、注意するのは普通ですが、自分自身の課題であるお手つきの低減や、札を取る際の敏捷さに影響するので、暗記時間中に反芻して頭を休めることがないようにしています。

また普段の練習において試合後は自分のミスを省みるようにしています。同じミスを繰り返さないよう、どのように動くべきか常々思いめぐらしています。このように日常生活の応用に競技かるたが活かせることに面

白みを感じました。

大会に出場させていただける機会を得て、今まで対戦したことのない人と試合ができて、対戦相手の強みや凄さ、自分の技術の未熟さを痛感しました。だから、初段を取得したことは、目標やゴールたりえなかったことに気付かされました。

今後は、基礎的な部分（姿勢や札の払い）を強く固めることを目標に勇往邁進します。そうして、さらに（コロナ禍では難しいことではありますが、）人と関わることの肝要さや競技かるたの面白さに触れていきたいです。

ちはやふると出会って

久居かるた会 高吉 美羽

私がかかるたを始めたきっかけはちはやふるという映画を見たことです。面白そうと思い、親にかかるたをしてみたいと相談をして中一の終わりに久居かるた会に入りました。それから数回大会に出てみたものの中々勝てないまま受験生になってしまいました。受験勉強のため

かるたを一旦やめている間にコロナウイルスが流行ってしまい、高校生になってからは練習をする機会が減ってしまっていました。そんな中試合してくれた人達はみんな、もっと攻めた方が良いとアドバイスをくれました。たくさんの人からアドバイスをもらって、自分が勝てないのは攻め足りていないからだと分かり、初段認定大会では攻めがるたを特に意識して試合に臨みました。一試合目はうまく攻めることができず負けてしまいました。二試合目、三試合目はアドバイスをいかして試合をする事ができ、どちらの試合も勝つことができました。準優勝での昇段だったので、次に出る大会では優勝してC級に上がれるように練習していきたいです。

初段取得の勝因と今後の課題

暁学園かるた部 新高 楓乃

この度初段取得において今回の勝因は冷静さを保つことにあったと考えます。普段の練習でも攻められたときにパニックにおちいったり、あせったりすることなく落ち着きを保って乗り越えています。そうすることで、

お手つきを減らすことができます。特に終盤でお手つきをすると大変もったいなく、たとえ勝っていても逆転されてしまう可能性があります。今回の試合も冷静さを保って、一つ一つ丁寧に確実に札をとっていきました。最後の方は敵陣に札が固まってしまい、相手に連続で何枚か取られることもありましたが、枚数に差があったので、お手つきをしないように確実に自陣の札を減らしてきました。

課題は暗記が苦手なので、暗記を頑張りたいです。同じ句始めのものを固めてできるだけ覚えやすくなるように工夫していますが、そのようにすると相手にも暗記しやすくなってしまいますので、自分の決まった定位置をつくるようにします。

これからは暗記に力を入れ、より競技かるたを好きになり、楽しみ、技術向上を目指していきたいです。

初段を取得して

暁学園かるた部 濱口 美心

十二月の初段認定での初段取得において、今回の勝因

は、お手つきをしてしまったり、運命戦になったりしても、冷静を保てたことにあつたと考えます。普段の練習では、一度お手つきをすると焦ってしまう癖がある事に気づき、お手つきをしない事を念頭に置き、練習していきます。そのため、お手つきをする回数が減り、お手つきをしても心に余裕がある状態で試合を続けることができました。また、今回運命戦をすることになりましたが、練習時に運命戦を何度か行つたため、冷静に音を判断し、払えたのだと思います。

初段取得後は、相手の手につられすぎてしまうこと、払いの遅さを課題とし、札の配置を正確に覚えること、空札ではなるべく手を出さないことを意識して普段の練習の試合に励み、払い練習を行う際は、積極的に参加するようにしています。

今後は、現在の課題を克服し、C級所持者と互角に戦えるまで成長することを目標とし、練習に励んでいきます。

努力したいこと

鈴鹿玉垣かるた会 原 侑太郎

僕が競技かるたを始めたきっかけは、小学三年生の時にやった五色百人一首です。その時に、もつと札を取りたいと思い小学四年生の夏に初心者講習会に参加しました。札を払うところに五色百人一首とはまた違う魅力が競技かるたにはあり、競技かるたを始めました。最初は払えなかったけど払い方を教えてもらって、きれいに払えた時が楽しくてもつとやりたいなと思いました。

僕は相手陣をあまり取りに行かないので、「もつと攻めたほうがいいよ」

といつもアドバイスを受け、そのことを意識して練習しています。しかし、自分の陣を守ろうと思ってしまう、まだまだできていないので、練習で相手陣を攻めることを繰り返して直していきたいなと思います。

初段認定大会の三試合のうち二試合勝てた理由は、札を取られても焦らずに試合をできたことです。焦らずに試合をできたのは相手陣を取りに行けたことだと思います。自分が不利な状況でも相手陣の札を取ると前向きな気持ちになることができたからです。

三試合目は一枚差で負けました。札の枚数の差が開いていて攻めることができなかったです。守ったままだった

たら長引くだけなのでもっと早く相手陣をぬけるようにしたいと思いました。

反省を生かして昇級できるように頑張りたいです。

初段を取得して

暁学園かるた部 渡邊 璃奈

私は第二回初段認定三重大会において初段を取得しました。この大会の一週間前に行われた三重県大会では思うような結果が出なかった為、悔しい思いをしました。しかし、三重県大会の反省を生かし、無事優勝、昇段することができて良かったです。

一回戦・二回戦目では比較的余裕をもった試合ができましたが、三回戦目は運命戦でした。既に昇段が決定した上での試合だったので、良くも悪くもリラックスした状態で臨みました。このリラックス状態の影響で運命戦に至るまでの自分のかるたはあまり良くありませんでしたが、運命戦では逆に気持ちを張りすぎず冷静なかるたができました。

今年はコロナ禍にも関わらず、全国高等学校かるた選

手権、全国高等学校総合文化祭、近畿高等学校総合文化祭に出場させてもらいました。奇跡的にこの三つの大会の期間はコロナウィルスの感染状況が落ち着いており、貴重な経験をさせてもらったことを大変嬉しく思っています。この三つの大会で自分より高い技術を持つ高校生のかるたを勉強できたので、この経験を生かしてこれからも精進していきたいです。

3. 団体戦の記録

成 績	参加選手	時期・場所	大会名
暁高が三重県代表として出場 Eブロック2回戦 2勝3敗 敗退 (対：一関第一高)	近藤 真衣 田中 悠也 森 春香 植村 涼寧 伊藤 凜佳 市川 愛 水谷 菜々花 渡邊 璃奈	7月、 近江 神宮	高校選手権
予選リーグ Bブロック1勝2敗 (予選敗退) 対山梨 3勝0敗 対和歌山 1勝2敗 対千葉 0勝3敗	近藤 真衣 内山 琴葉 羽根 夏鈴 笹間 あい 森 愛菜 田中 悠也 森 春香 渡邊 璃奈	8月、 和歌山	高校総合文化祭
予選リーグ Hブロック0勝3敗 (予選敗退) 対群馬 1勝2敗 対岡山 1勝2敗 対京都 1勝2敗	武居 優冨 太田 智絵 太田 峻友 岩名 寿岳 武居 政敏 久 知嗣 桐嶺 真琴	11月、 和歌山	国民文化祭
Bブロック3勝1敗 (ブロック2位) 対兵庫 3勝2敗 対大阪 0勝5敗 対滋賀B 4勝1敗 対鳥取 5勝0敗 3位順位決定戦 対奈良 0勝5敗 最終結果 4位	近藤 真衣 内山 琴葉 羽根 夏鈴 笹間 あい 植村 涼寧 田中 悠也 森 春香 渡邊 璃奈	11月、 近江 神宮	近畿高校総文祭

4. 訃報

二〇二一年八月十二日、三重県かるた協会前会長の大平修身氏（享年八十五歳）が逝去されました。訃報に際し、太田会長から寄せられたメール文面を掲載させていただきます。

氏は、昭和三十年代に桑名若菜会に入会され、以降全国大会優勝六回されるとともに、日立金属でかるた部を立ち上げ、後進の育成にも尽力されました。

日立金属の労働組合の要職を務められ、長く東京で単身赴任の生活を送られました。

その間、当時山梨大学の学生であった私は、週末甲府から東京まで通い、宿舎に泊めていただきながらカセソトテープで二人で練習に励んだことが思い起こされます。

桑名に帰還後は、不在の間にすっかりさびれた桑名若菜会の再興に尽力するとともに、員弁百人一首の会を設立し、自宅を開放して練習するなど、かるたの普及に努められるとともに、現在の三重県かるた協会、三重若菜会の骨格を作り上げていただきました。

全日本かるた協会の理事として長く運営に携わり、調査研究部長の要職も務められました。「競技かるた百年史」の編纂の責任者として奔走し、平成二十年に完成・発行に至りました。

また、氏は、競技かるたのみならず歌人としてもその活動は有名でした。昭和二十年後半に桑名の短歌結社「金雀枝」（えにしだ）に入会し、自身の詠んだ歌集を出版するとともに、毎日新聞、産経新聞の短歌コーナーの選者として活躍されました。後に「金雀枝」の主幹として、会のとりまとめ、機関誌の発行に尽力されました。

た。また、「くわな歴史と文学を語る会」を設立し、「毎月講演会」、「歴史文学散歩」を毎月開催し続けました。このような活動が認められ、平成二十年には地域文化功労者として文部科学大臣表彰を受けられました。このような氏の努力があつて、現在我々が活動できていると、改めて感じる次第です。あまりご存じない方も見えると思い、少し紹介させていただきました。

合掌。

発行日 二〇二二年十一月二十七日

発行行 三重若菜会

発行責任者 村上 智 洋